

横浜市大気汚染調査報告

第 2 報

昭和 37 年 3 月

横浜市公害センター

横浜市衛生局

横浜市においては公害問題の一番大きな課題である大気汚染の調査について、昭和31年8月からすでに5年間にわたって継続してまいりましたが昨年調査結果の一部を第1報として発表し、皆様の御批判を願いましたが、今回は昭和36年度の成績概要をまとめて第2報として発表の運びとなりました。

本市は京浜工業地帯の一部を鶴見、神奈川地区に有し、戦災後の工場の復興、生産の上昇とともに多くの公害問題が惹起されてきたわけで、大気汚染はその被害も広範囲に及び有形無形の悪影響を与えております。

鶴見区内の某製鉄所においては、平炉及び転炉などの発塵源に集塵装置を設置することとなり、すでに起工いたし今後“赤い煙”として騒がれた特徴ある煙も姿を消すことであらましよう。

私どもは「新鮮なる空気と十分なる日光」を満喫するため、きれいな環境に一日も早くなるよう大気汚染の実態を把握し、努力いたしていく所存であります。

終わりに調査開始以来関係方面の御指導、御協力に深謝の意を表します。

昭和37年3月

横浜市衛生局長

谷 山 幸 男

目 次

I 緒 言	1
II 調 査 成 績	3
1 降下ばい塵	3
2 鉄	12
3 亜硫酸ガス	13
4 風 向	18
付 公害処理指導状況	19

I 緒 言

本市においては昭和31年8月に市内15箇所以降下ばい塵計を設置して以来、一部廃止したものもあるが、昭和33年10月、更には昭和35年1月、36年1月と増設し現在24箇所において降下ばい塵の捕集を行ない測定に当っている。

また亜硫酸ガスについても昭和34年1月以来、10箇所、昭和35年8月に4箇所増設し計14箇所に降下ばい塵計と併設して、二酸化鉛法によつて測定を行なつている。

降下ばい塵計及び亜硫酸ガス測定装置の設置場所は第1図のとおりで、地域別には

工業地域	4箇所(4箇所)
準工業地域	3 // (3 //)
商業住宅地域	15 // (7 //)
田園地域	2 //

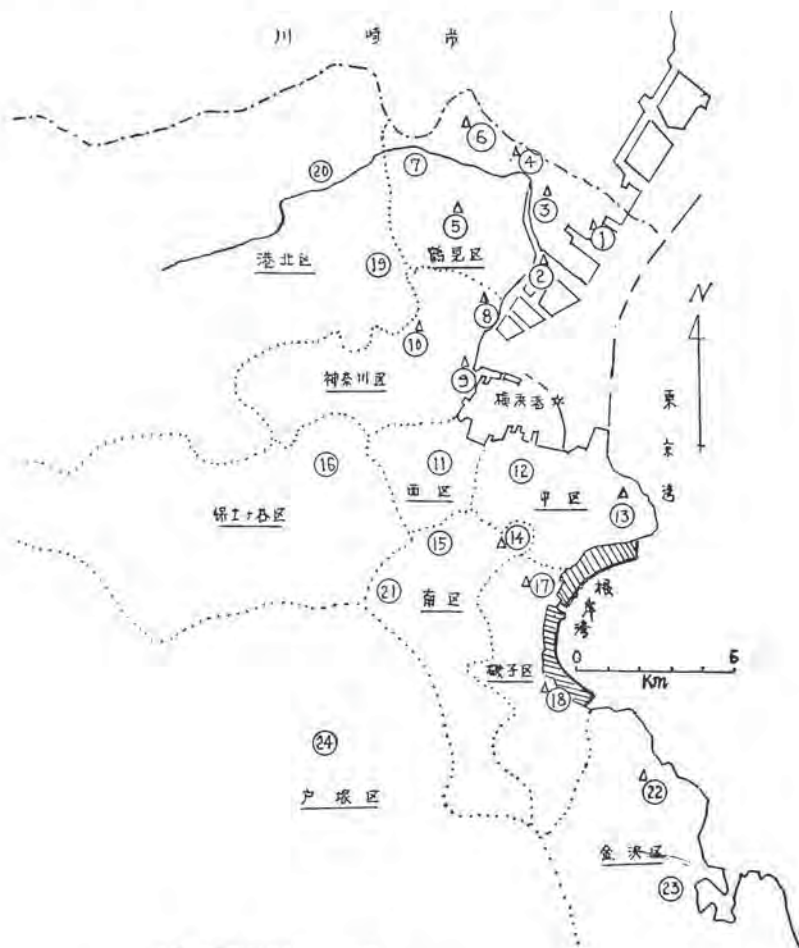
である。〔()内は亜硫酸ガス測定装置設置数〕

本市内の根岸湾(磯子区地先)の埋立によつて今後造成される工場地帯の影響も調査するために、その背後地にも降下ばい塵計等を設置してあるので、現に川崎、鶴見地区等の汚染源による影響とともに、今後造成される工場群に対してもその影響を把握できるよう調査している。

今回は昨年(昭和35年)の第1報に引き続き昭和36年の成績をまとめたので、第2報として報告し併せて昭和31年8月以来の測定成績の概要を述べることにする。

降下ばい塵中の不溶解性灰分に含有される鉄分については、昭和36年9月から測定を実施したのであるが鶴見区内の製鉄所より排出される“赤い煙”の影響等を把握するため今後長期の観察によつて降下ばい塵量との関連とともに現在改善中の製鉄所の集塵設備の効果判定にも供し得るものと期待している。

第1図 横浜市降下ばい塵調査測定点



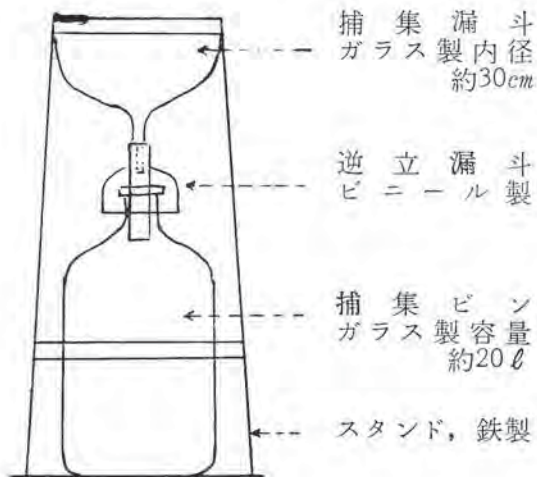
△印は亜硫酸ガス測定器併設、斜線部分は埋立予定地。

No.	地域	設置場所	No.	地域	設置場所
1	工工 標準	芝浦工業	13	商商 住住	緑ヶ丘
2		味の鶴	14		ケ浜市
3		浦の鶴	15		市保ヶ
4		見素平	16		谷
5	商商 住工	第一鉄	17	商商 住住	高生
6		一鉄	18		等研
7		日	19		健小
8		日	20		学健
9	工 商商	中神	21	商商 住住	警小
10		奈川	22		保小
11		立公	23		学健
12		公	24		学健

Ⅱ 調査成績

1 降下ばい塵

第2図 降下ばい塵測定装置



左図のごとき降下ばい塵計を、主として10~15mの建物の屋上等に設置し、1箇月ごとに捕集ビンを交換し、ばい塵量を測定する。

昭和36年1月から12月までの1年間の測定成績を第1表に示した。

工業、準工業、商業住宅及び田園の各地域についての年間平均は、工業地域の 19.0 t/km²/month (以下「t」と略す) 準工業地域の 15.6 t, 商住地域の 10.5 t, 田園地域の 8.8 tとなり工業及び準工業地域で全体の約64%を占めている。

第1表 測定点別降下ばい塵量(昭和36年1月~12月)

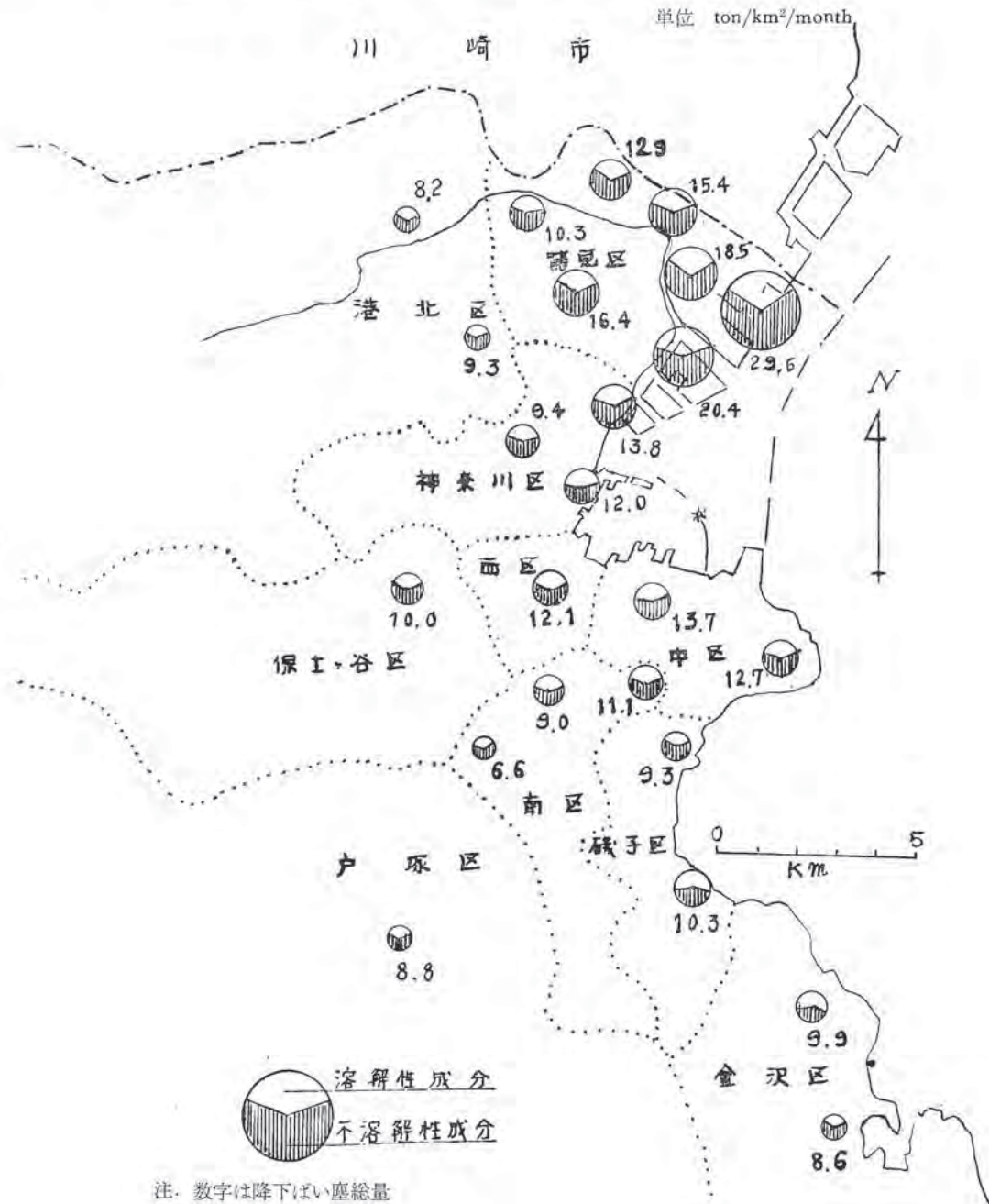
ton/km²/month

地域 区分	測 定 点	不 溶 解 性 成 分				溶 解 性 成 分			総 量
		ター ール分 分	ター ール分 以外 の炭 素分	灰 分	小 計	灼熱減	灰 分	小 計	
工業 地域	芝浦工機株式会社	0.12	4.5	15.6	20.2	2.8	6.6	9.4	29.6
	味の素横浜工場	0.11	2.3	10.1	12.5	2.5	5.4	7.9	20.4
	日本ビクター入江工場	0.10	1.3	6.8	8.2	2.0	3.6	5.6	13.8
	中央卸売市場	0.11	1.2	5.6	6.9	1.7	3.4	5.1	12.0
	平 均	0.11	2.3	9.5	12.0	2.3	4.8	7.0	19.0
準工業 地域	鶴見保健所	0.10	1.6	10.9	12.6	1.9	4.0	5.9	18.5
	旭硝子平安アパート	0.12	1.4	8.2	9.8	2.0	3.6	5.6	15.4
	国鉄鶴見給電区	0.09	1.4	7.5	9.0	1.3	2.6	3.9	12.9
	平 均	0.10	1.5	8.9	10.5	1.7	3.4	5.1	15.6
商業 住宅 地域	第一商業高等学校	0.10	2.3	9.2	11.5	1.7	3.2	4.9	16.4
	国鉄鶴見アパート	0.09	0.9	4.6	5.5	1.8	3.0	4.8	10.3
	神奈川工業高等学校	0.09	0.9	4.5	5.5	1.4	2.4	3.9	9.4
	県立音楽堂	0.10	1.5	6.5	8.1	1.5	2.5	4.0	12.1
	横浜公園平和球場	0.12	0.7	6.6	7.4	1.9	4.4	6.3	13.7
	緑ヶ丘高等学校	0.10	0.8	4.4	5.3	2.7	4.7	7.4	12.7
	横浜市衛生研究所	0.11	1.1	5.5	6.7	1.6	2.8	4.4	11.1
	南保健所	0.10	0.8	4.7	5.5	1.3	2.3	3.5	9.0
	保土ヶ谷小学校	0.10	1.0	3.8	4.9	2.0	3.1	5.1	10.0
	磯子警察署	0.10	0.7	4.9	5.7	1.4	2.2	3.6	9.3
	杉田小学校	0.09	0.9	3.9	4.9	2.1	3.3	5.4	10.3
	電々公社アパート	0.07	0.6	2.3	3.0	1.7	1.9	3.6	6.6
	横浜高等学校	0.03	0.6	3.2	3.9	2.5	3.5	6.0	9.9
	東急車輛株式会社	0.09	0.6	3.6	4.3	2.0	2.3	4.3	8.6
ブリヂストンタイヤアパート	0.08	1.3	3.9	5.3	1.6	1.9	3.5	8.8	
平 均	0.09	1.0	4.8	5.8	1.8	2.9	4.7	10.5	
田園 地域	港北保健所	0.08	1.0	4.6	5.7	1.4	2.3	3.7	9.3
	綱島小学校	0.10	1.0	4.0	5.1	1.4	1.7	3.1	8.2
	平 均	0.09	1.0	4.3	5.4	1.4	2.0	3.4	8.8
総 平 均	0.10	1.3	6.0	7.4	1.8	3.2	5.0	12.4	

注：上記の数字は月平均値である

各測定点についてみても第1表, 第3図に示されるように鶴見区内の測定点は可成りの高値を示しているが, 芝浦工機が毎回最高値を占めることが多く, 昭和36年度も年間平均29.6tで, 不溶解性成分でも降下ばい塵総量の68% (年間平均), 鶴見給電区の12.9tに対し70%と高率を示している。

第3図 測定点別降下ばい塵量 (昭和36年1月~12月)



横浜市内の降下ばい塵量を月別に検討すると、第2表のように最高は4月の16.6t、最低は7月の7.6tであるが、貯水量（降雨量）の多い月は概してばい塵量も多いが、9月は貯水量（1.7ℓ）に比し、逆に16.4tと高値を示しているのが特異的である。

第2表 横浜市内月別降下ばい塵量（昭和36年1月～12月）

年 月	貯水量	不 溶 解 性 成 分				溶 解 性 成 分			総 量
		タール分	タール分以 外の炭素分	灰 分	小 計	灼 熱 減	灰 分	小 計	
昭 36- 1	1.8	0.06	0.6	5.4	6.0	0.9	1.6	2.5	8.5
2	1.3	0.07	1.0	5.7	6.8	1.1	1.4	2.4	9.2
3	7.9	0.09	2.0	7.4	9.5	2.3	3.4	5.7	15.2
4	12.9	0.06	1.2	7.8	9.1	3.0	4.5	7.5	16.6
5	5.7	0.05	1.8	5.4	7.3	2.0	3.9	5.9	13.2
6	21.7	0.04	1.2	4.7	5.9	3.2	5.0	8.2	14.1
7	5.1	0.04	0.9	4.2	5.1	1.2	1.3	2.5	7.6
8	3.2	0.04	1.9	7.4	9.5	1.1	2.6	3.7	13.0
9	1.7	0.19	1.3	9.2	10.7	1.5	4.2	5.7	16.4
10	21.7	0.18	0.9	4.7	5.8	3.2	5.3	8.5	14.3
11	8.2	0.22	1.1	5.7	7.0	1.8	3.2	5.0	12.0
12	3.8	0.17	1.2	4.8	6.2	1.2	2.4	3.6	9.8
平均	7.9	0.10	1.3	6.0	7.4	1.9	3.2	5.1	12.5

注：横浜市内24箇所の測定成績の平均である。

タール分の抽出は9月分からソックスレー抽出法に改めた。

風向、風力、降雨量等いろいろの要因はあるが降下ばい塵量の成績のみについての概要は第4図に示されるように工業地域では昭和32年から昭和34年にかけては余り変化がなく、昭和35年には少し減少を示している。昭和36年は昭和35年より少し増加してはいるが、昭和32年に比し8.2%減少している。

準工業、商業住宅地域はともに毎年漸減の傾向にあり成分別には主として不溶解性成分の減少が目立っている。

田園地域は毎年大きな変化はないが漸減の傾向はみられる。

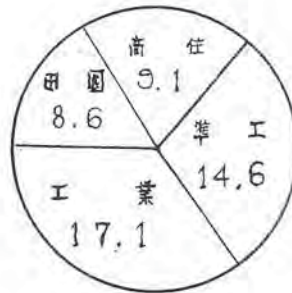
全体として昭和36年は昭和32年の約19%減少している。

地域別、各測定点別の経過は第5図及び第6図に示されるが、前述のごとく概ね減少の傾向をたどっているようである。

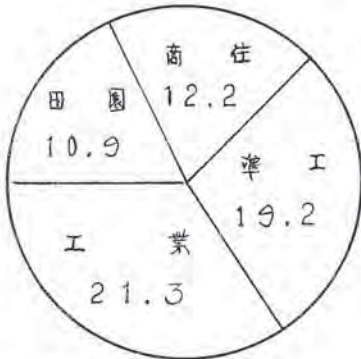
第4図 降下ばい塵地域別年次比較

単位 ton/km²/month

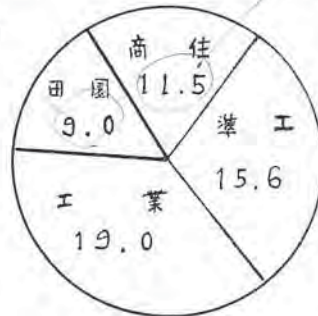
昭和32年1月～昭和32年12月



昭和35年1月～昭和35年12月



昭和33年1月～昭和33年12月

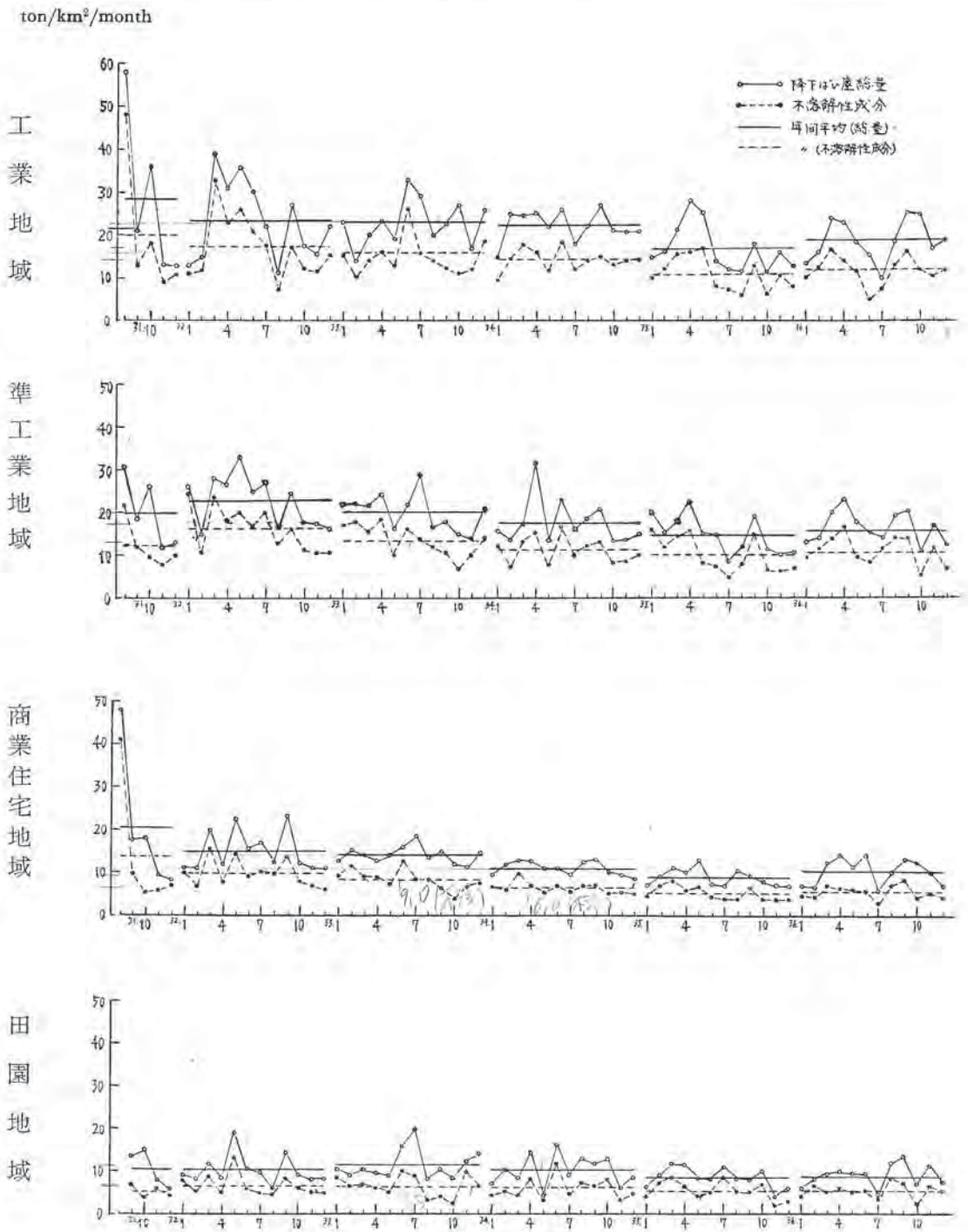


昭和36年1月～昭和36年12月



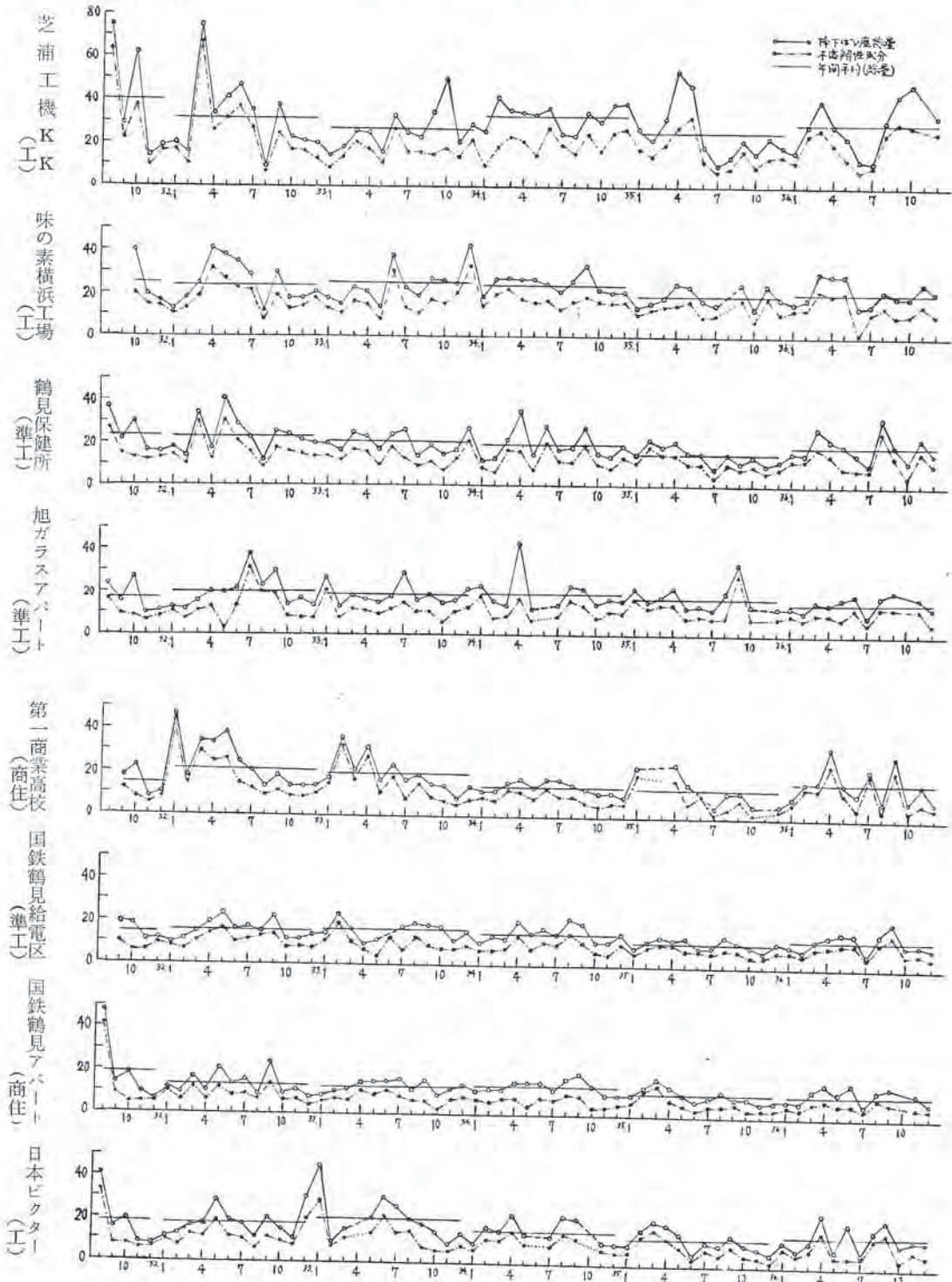
昭和34年1月～昭和34年12月

第5図 降下ばい塵量月別変化(地域別)



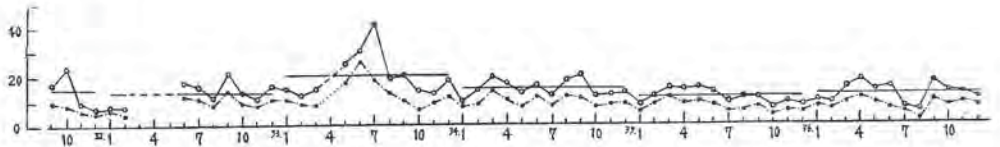
第6図 降下ばい塵量月別変化(測定点別)

ton/km²/month



ton/km²/month

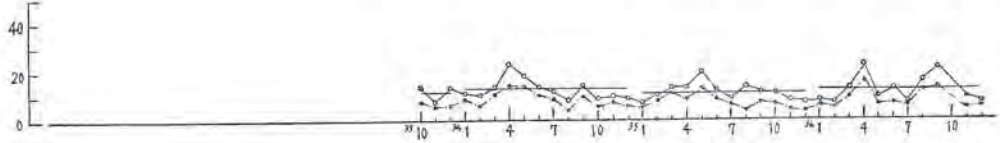
中央卸売市場
(工)



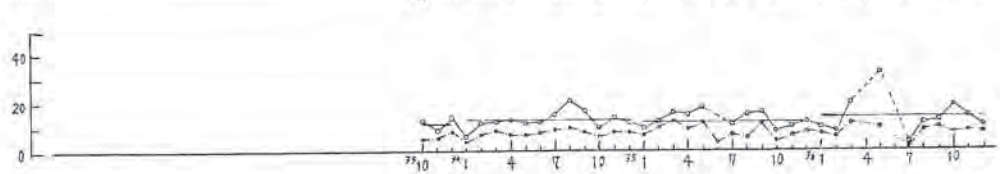
神奈川工業高校
(商住)



県立音楽堂
(商住)



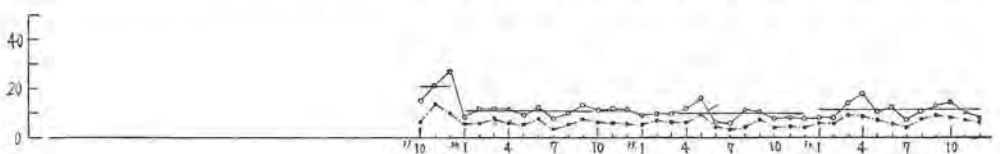
横浜公園平和球場
(商住)



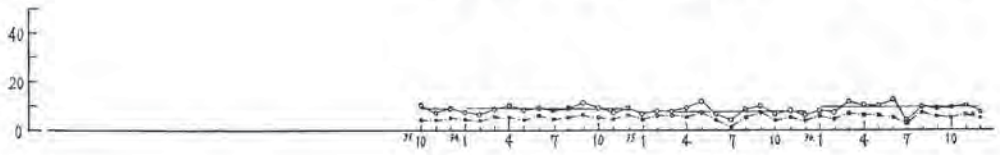
緑ヶ丘高校
(商住)



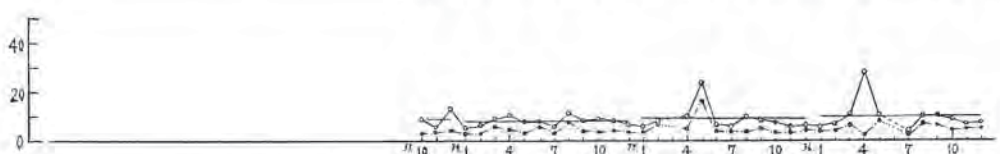
市衛生研究所
(商住)



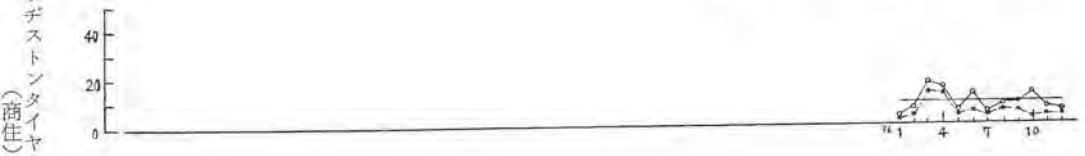
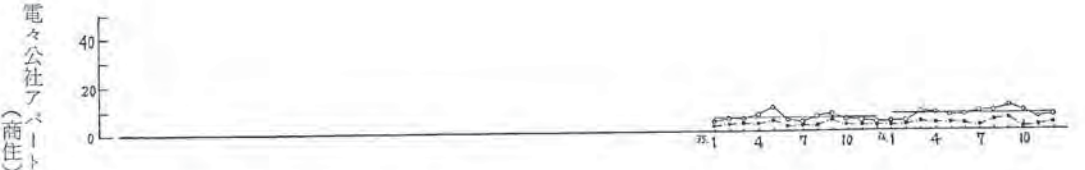
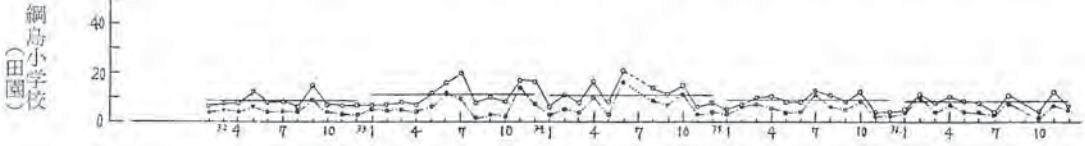
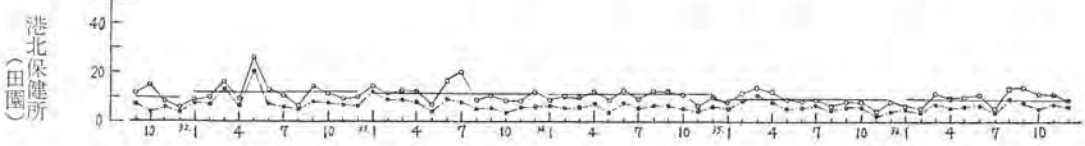
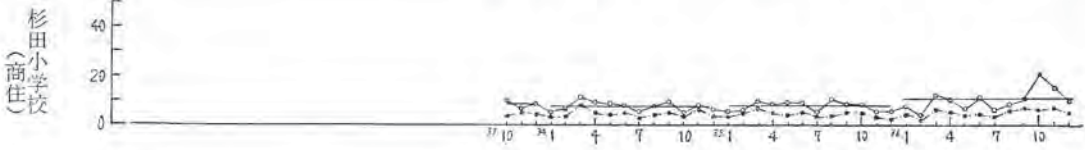
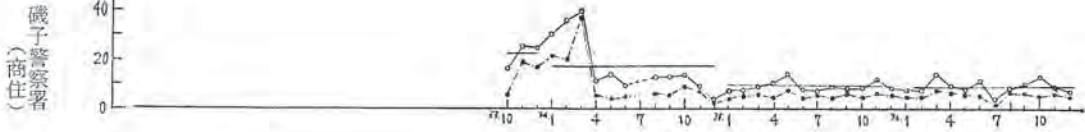
南保健所
(商住)



保土ヶ谷小学校
(商住)



ton/km²/month



2 鉄

本市においては昭和36年9月から降下ばい塵中の鉄分について分析を実施した。その成績は第3表のとおりである。

今回は9月から12月までの4箇月間の成績について検討を加えてみると、芝浦工機の10月における $5.55 \text{ t/km}^2/\text{month}$ が最高で、最低は同じく10月のブリヂストンタイヤアパートにおける 0.04 t である。

9月～12月の4箇月平均でも芝浦工機の 3.90 t 、次が旭硝子平安アパートの 1.80 t が成りの高値を示し、次いで味の素横浜工場、鶴見保健所の順で鶴見区内の測定値は降下ばい塵量と同様に他区に比し降下量は多くなっている。

不溶解性成分中の灰分量に対する百分率でも芝浦工機、旭ガラスが 13.9% 、 18.2% と高率で、これらを除くと他はいずれも低くなる。

総量に対しても芝浦工機、旭硝子が 8.8% 、 10.5% と多く、他はいずれも 5% 以下である。

風向によつては鶴見区内で発生したばい塵も海岸の方へ流れ、また川崎、東京方面へも影響を与えるが、その逆の場合もあるので鶴見区内において発生した粉塵中の鉄分とは断定できないが、製鉄所の設備改善によつて今後の測定成績に好結果のあらわれることを期待している。

鉄に関しては短期間の成績であるので十分な検討は加えられないが今後継続して測定を行ない経過を観察していきたい。

第3表 降下ばい塵中の鉄量及び総量，不溶解性灰分中の百分比

昭和36年9月～12月 ton/km²/month

No.	測 定 点	不溶解性灰分中铁量					(B) 不溶解性 灰分量	(C) 降下ばい 塵総量	A/B %	A/C %
		9月	10月	11月	12月	(A) 平均				
1	芝浦工機株式会社	1.26	5.55	—	4.89	3.90	28.0	44.5	13.9	8.8
2	味の素横浜工場	0.67	0.85	1.31	0.70	0.88	11.4	21.0	7.7	4.2
3	鶴見保健所	1.01	0.29	1.37	0.76	0.86	11.0	17.0	7.8	5.1
4	旭硝子平安アパート	3.69	—	1.22	0.48	1.80	9.9	17.1	18.2	10.5
5	第一商業高等学校	1.59	0.33	0.61	—	0.84	10.3	15.5	8.2	5.4
6	国鉄鶴見給電区	1.06	0.44	0.63	0.31	0.61	8.3	13.1	7.4	4.7
7	国鉄鶴見アパート	0.68	—	—	0.22	0.45	5.6	11.3	8.0	4.0
8	日本ビクター入江工場	1.03	0.20	0.57	0.53	0.58	8.1	14.4	7.2	4.0
9	中央卸売市場	0.71	0.67	—	0.42	0.60	7.6	13.0	7.9	4.6
10	神奈川工業高等学校	0.97	0.24	0.39	—	0.53	7.5	11.4	7.1	4.6
11	県立音楽堂	0.91	—	0.36	—	0.64	7.5	12.4	8.5	5.2
12	横浜公園平和球場	0.73	0.55	0.53	0.39	0.55	7.7	13.7	7.1	4.0
13	緑ヶ丘高等学校	0.56	0.60	0.56	0.20	0.48	5.0	12.3	9.6	3.9
14	横浜市衛生研究所	0.63	0.59	0.46	0.37	0.51	7.7	11.4	6.6	4.5
15	南保健所	0.36	0.32	0.37	0.31	0.34	5.6	8.9	6.1	3.8
16	保土ヶ谷小学校	0.49	0.26	0.38	0.26	0.35	5.2	8.5	6.7	4.1
17	磯子警察署	0.51	0.34	0.50	0.32	0.42	5.8	9.9	7.2	4.2
18	杉田小学校	0.38	0.34	0.37	0.33	0.36	6.0	14.2	6.0	2.5
19	港北保健所	0.58	0.34	0.43	0.36	0.43	6.0	10.8	7.2	4.0
20	綱島小学校	—	0.03	0.97	0.14	0.38	4.0	7.4	9.5	5.1
21	電々公社アパート	0.41	0.18	0.20	—	0.26	2.9	7.3	9.0	3.6
22	横浜高等学校	0.46	0.13	0.26	0.09	0.24	4.3	7.9	5.6	3.0
23	東急車輛株式会社	0.46	0.17	0.49	0.22	0.34	4.4	8.4	7.7	4.0
24	ブリヂストンタイヤアパート	0.42	0.04	0.25	0.27	0.25	3.7	8.4	6.8	3.0
	平 均	0.85	0.59	0.58	0.58	0.66	7.5	13.0	8.2	4.6

注：(A), (B), (C)いずれも9月～12月の平均値

3 亜硫酸ガス

本市においては二酸化鉛法による亜硫酸ガスの測定を第7図のような装置を用いて行な

つているが、測定地点は市内14箇所以降下ばい塵計と併設してある。(第1図参照)

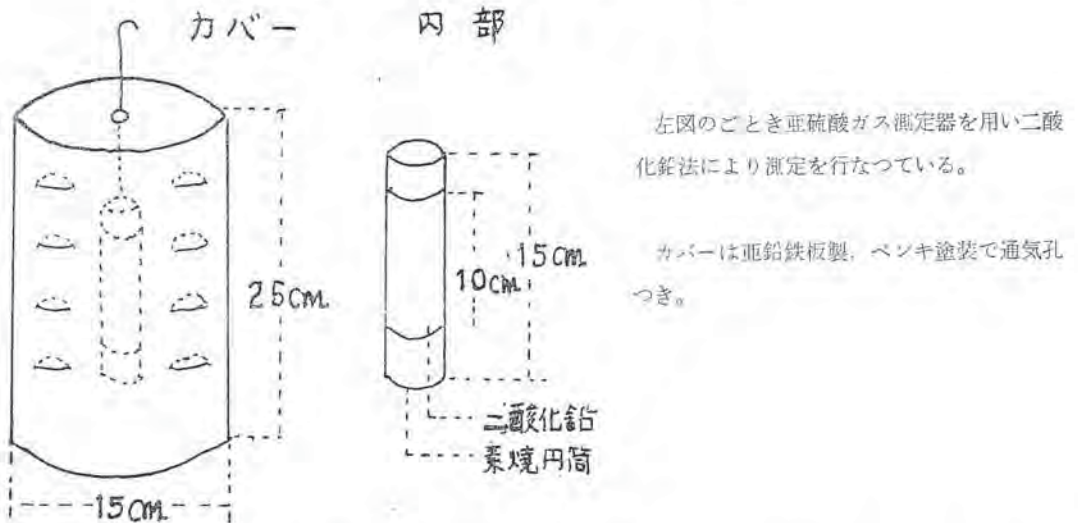
昭和36年の概要をみると第4表のように最高は味の素横浜工場の2.35mg(4月)で最低は横浜高校の0.14mg(8月)であるが年間を通じて味の素横浜工場が1月, 2月を除いて常に最高値を示している。年間平均は1.66mgである。最低は横浜高校の0.33mgであつた。

二酸化鉛法は試薬の活性度, 温度, 湿度等によつて異なつた成績が得られるので一概に断定することは危険であるが, 工場密集地帯の鶴見区内が概して高値であり工業, 準工業地域は各月の平均では商業住宅地域よりも常に多く2:1以上の比率の場合もある。

年間平均においても工業, 準工業地域と商業住宅地域では約2:1であつた。

過去3年間の成績をみると第8図と第9図のように地域別, 測定点別にあつてもあまり変化はみとめられない。

第7図 亜硫酸ガス測定装置



- (注1) 二酸化鉛は硫酸根の少ない純度の高いものを100メッシュ以下にして使用。接着剤はトラガントゴム末1%溶液を使用, PbO₂ 接着用綿布はサンホライズブロード60番を使用し, 二酸化鉛の塗布面積は約100cm²とする。素焼円筒は外径10/πcm, 長さ15cmのもの。
- (注2) この測定方法は二酸化鉛の活性度によつて異なつた成績が得られるので, 英国においては燃料研究所検定の標準品を使用しているが我が国ではまだ一定の標準品を使用するに至っていない。本成績においては下記のごとく3種類の二酸化鉛を使用しているので相互の換算について目下検討中である。

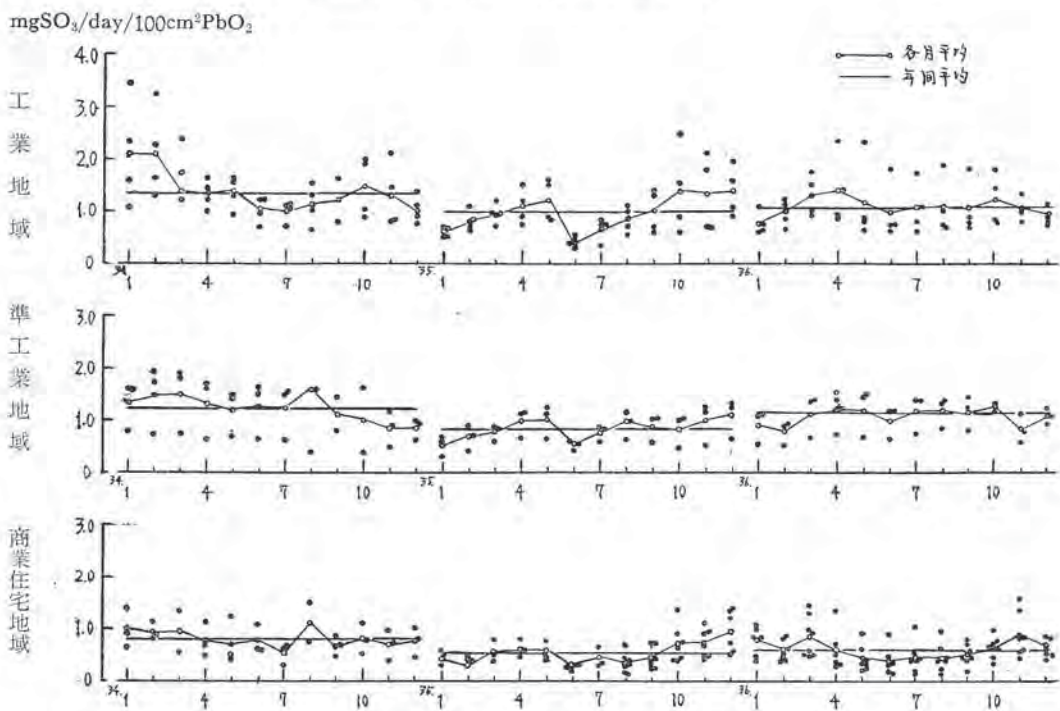
昭和33年9月~昭和34年3月	ドイツ	メル	ク	社	No. 7409
昭和34年4月~昭和35年9月	ドイツ	メル	ク	社	No. 7407
昭和35年10月~昭和36年2月	日本	日本理化学薬品株式会社			No. 1771 (特級)
昭和36年3月	日本	関東化学株式会社			5A051080
昭和36年4月	日本	日本理化学薬品株式会社			No. 1771 (特級)
昭和36年5月~昭和36年12月	日本	関東化学株式会社			5A051080

第4表 横浜市内における亜硫酸ガス測定成績（二酸化鉛法による）

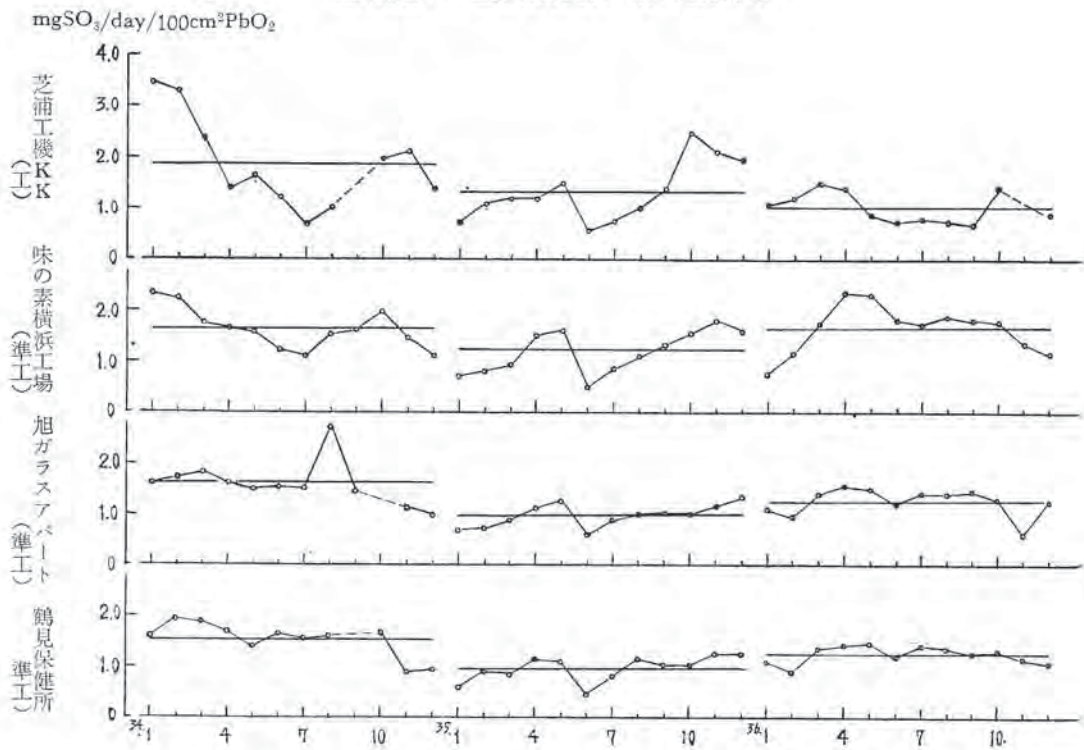
昭和36年1月～12月 単位：mgSO₃/day/100cm²PbO₂

地域区分	測定点	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年平均
工業地域	芝浦工機株式会社	1.07	1.22	1.50	1.41	0.87	0.74	0.81	0.75	0.68	1.45	—	0.91	1.04
	味の素横浜工場	0.75	1.14	1.75	2.35	2.33	1.82	1.74	1.87	1.82	1.79	1.35	1.15	1.66
	日本ビクター入江工場	0.60	0.85	0.99	0.93	0.84	0.75	1.10	1.02	0.92	0.85	0.81	0.75	0.85
	中央卸売市場	0.64	0.66	0.92	0.87	0.64	0.56	0.63	0.71	0.79	0.80	0.97	0.80	0.75
	平均	0.77	0.97	1.29	1.39	1.17	0.97	1.07	1.09	1.05	1.22	1.04	0.90	1.08
準工業地域	鶴見保健所	1.07	0.88	1.34	1.41	1.45	1.19	1.41	1.35	1.25	1.29	1.15	1.07	1.24
	旭硝子平安アパート	1.11	0.95	1.38	1.56	1.49	1.20	1.41	1.40	1.46	1.27	0.57	1.24	1.25
	国鉄鶴見給電区	0.85	0.82	0.98	1.35	0.94	0.91	1.04	0.95	0.81	—	0.79	0.95	0.94
	平均	1.01	0.88	1.23	1.44	1.29	1.13	1.29	1.23	1.17	1.28	0.84	1.09	1.14
商業住宅地域	第一商業高等学校	0.54	0.52	0.67	0.73	0.69	0.66	0.76	0.85	0.81	0.98	1.36	0.86	0.79
	神奈川工業高等学校	—	0.47	0.49	0.37	0.42	—	0.45	0.41	0.41	0.47	0.56	0.66	0.47
	横浜市衛生研究所	0.86	0.53	0.59	0.52	0.35	0.30	0.41	0.39	0.49	0.72	0.87	1.17	0.60
	緑ヶ丘高等学校	1.00	0.63	1.31	—	0.61	0.47	0.53	0.66	0.74	—	1.59	0.44	0.80
	磯子警察署	1.08	0.87	1.47	0.72	0.34	0.35	0.41	0.45	0.57	0.78	0.86	0.83	0.73
	杉田小学校	0.47	0.42	0.50	0.29	0.22	0.19	0.22	0.24	0.49	0.67	0.62	0.57	0.41
	横浜高等学校	0.44	0.41	0.51	0.34	0.24	0.16	0.17	0.14	0.18	0.35	0.46	0.53	0.33
	平均	0.73	0.55	0.79	0.50	0.41	0.36	0.42	0.45	0.53	0.66	0.90	0.72	0.59
総平均	0.81	0.74	0.89	0.99	0.82	0.72	0.79	0.80	0.82	0.95	0.92	0.85	0.85	

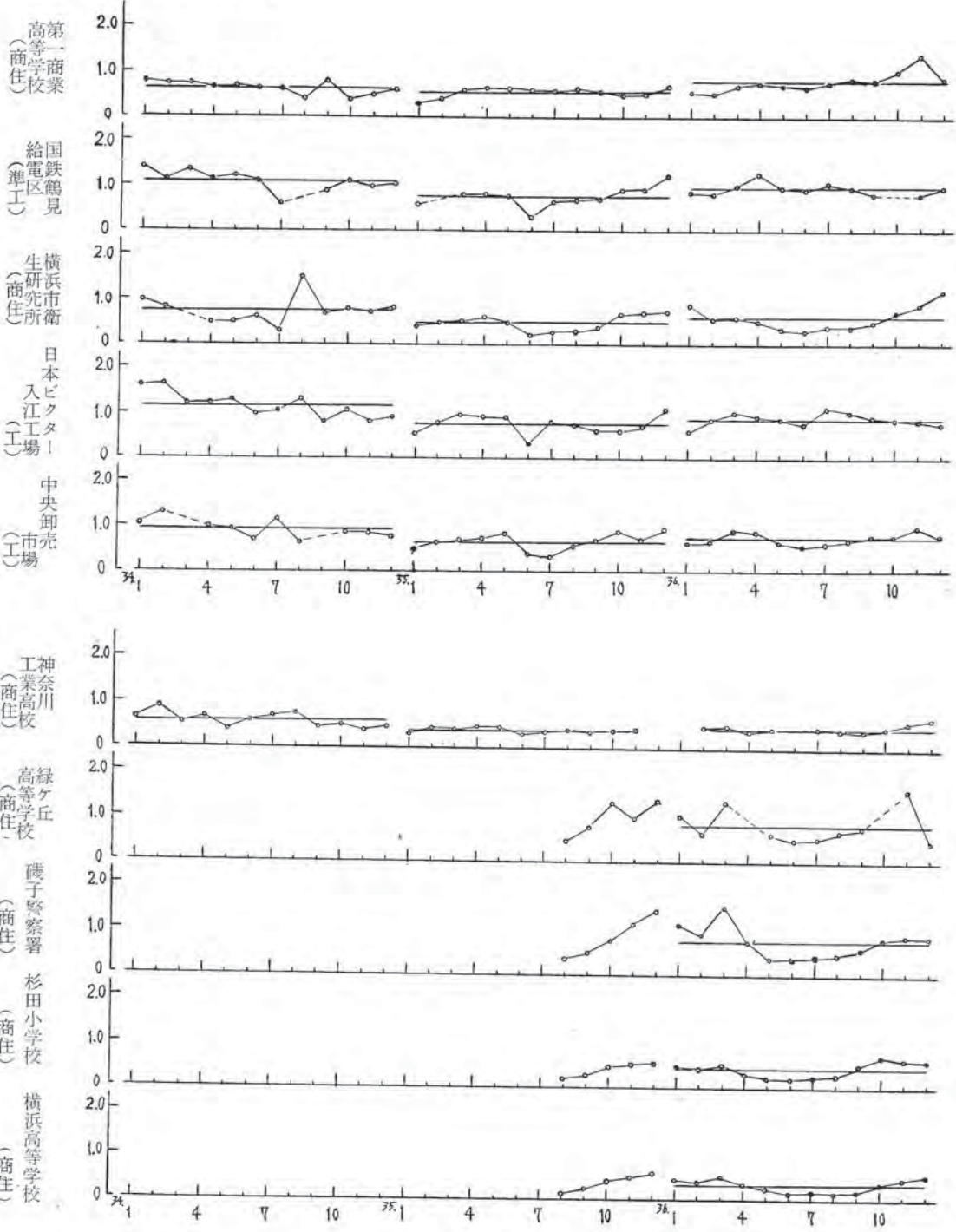
第8図 亜硫酸ガス量月別変化（地域別）



第9図 亜硫酸ガス量月別変化（測定点別）



mgSO₂/day/100cm²PbO₂



4 風 向

横浜地方気象台において測定した風向頻度を第5表に示した。

京浜工業地帯の大気汚染においてはSSWの風向が最も影響が多いといわれているが、第5表のように昭和35年、36年とも夏期にはS、SSWが多く他の時期はN、NNWが多くなっている。

第5表 風 向 頻 度

(昭和35年)

(横浜地方気象台調) (%)

風向 月	N	NNE	NE	ENE	E	ESE	SE	SSE	S	SSW	SW	WSW	W	WNW	NW	NNW	C
1月	16.8	2.2	4.6	4.2	3.1	1.9	1.5	0.9	1.3	2.0	5.0	5.2	3.4	5.9	12.0	29.8	0.3
2月	23.1	2.0	3.4	4.0	5.3	2.0	1.9	2.2	2.6	2.0	6.0	3.9	2.6	1.7	9.2	27.6	0.4
3月	14.7	3.2	5.9	2.8	5.2	2.6	1.5	2.6	5.6	7.7	3.6	0.9	2.3	2.2	8.7	30.1	0.4
4月	9.9	4.6	9.3	7.5	4.9	2.1	2.2	3.1	6.8	6.9	2.2	6.1	2.2	2.5	10.7	24.3	0.7
5月	7.1	3.1	10.8	3.9	3.8	1.7	2.6	5.8	16.4	10.3	5.0	0.8	3.4	4.2	9.0	11.0	1.2
6月	5.0	3.3	8.9	4.4	4.6	1.9	3.6	5.1	17.9	13.1	9.4	0.7	1.5	3.3	5.6	9.7	1.8
7月	2.1	3.2	10.8	10.1	6.3	2.4	2.8	7.5	20.7	9.0	5.5	1.6	2.0	2.6	7.9	4.7	0.5
8月	7.3	3.6	4.8	6.5	5.8	1.6	1.9	9.4	20.7	14.5	5.4	1.2	2.7	1.9	3.5	8.6	0.4
9月	6.0	2.5	8.3	7.9	6.9	2.5	1.8	1.9	5.8	9.2	6.8	2.4	1.5	1.9	7.5	26.2	1.0
10月	20.3	6.9	8.2	7.5	3.1	1.7	1.3	0.5	1.2	1.1	1.7	0.3	0.4	1.5	6.5	42.2	0.5
11月	23.0	2.5	3.8	4.0	3.9	1.0	0.4	0.3	0.7	1.3	1.4	1.0	1.9	4.0	7.2	43.2	0.4
12月	14.3	2.0	2.0	4.2	3.9	2.1	2.1	1.7	1.2	2.1	3.8	7.0	3.0	3.8	12.2	33.6	0.9
平均	12.4	2.8	6.7	5.6	4.7	2.0	2.0	3.4	8.5	6.6	4.6	2.9	2.2	3.0	8.3	24.2	0.7

(昭和36年)

(%)

風向 月	N	NNE	NE	ENE	E	ESE	SE	SSE	S	SSW	SW	WSW	W	WNW	NW	NNW	C
1月	13.2	2.8	3.5	3.8	5.4	2.2	1.3	0.3	0.3	2.3	7.0	4.8	2.8	3.4	7.3	39.8	0
2月	12.4	2.0	2.9	3.2	4.8	2.4	2.3	0.3	0.9	1.8	3.0	4.8	4.8	3.0	8.1	43.4	0.3
3月	16.4	3.0	7.1	5.9	5.1	3.0	1.9	1.6	3.4	5.0	5.6	1.5	1.3	1.7	5.0	32.3	0.3
4月	14.0	3.5	4.7	6.8	4.6	3.1	3.5	3.3	7.9	14.2	7.6	2.8	3.5	2.1	4.0	14.2	0.3
5月	9.8	2.3	4.6	4.6	4.9	2.4	1.5	1.5	10.7	23.2	12.5	3.4	2.8	2.3	3.9	9.4	0
6月	7.0	2.7	2.1	5.1	4.3	2.4	2.5	4.3	20.0	18.7	9.6	4.0	3.3	1.9	3.7	7.6	0.7
7月	4.6	2.2	5.9	5.5	4.4	2.2	3.2	5.9	14.5	18.3	12.0	4.4	5.2	1.3	2.3	6.2	1.9
8月	5.2	1.7	9.0	7.7	9.3	1.2	1.9	4.2	14.4	13.8	9.3	2.3	1.2	1.6	4.8	11.8	0.5
9月	7.4	4.0	5.7	6.4	6.5	2.6	1.1	4.0	14.2	12.8	4.9	2.1	1.5	1.1	5.1	20.1	0.3
10月	16.1	7.5	7.0	6.0	2.4	2.1	0.3	0.5	3.4	2.3	2.3	0.9	0.9	1.1	7.0	39.7	0.7
11月	14.4	2.5	5.0	3.1	4.2	2.6	1.3	1.1	1.5	2.4	4.6	1.8	3.5	2.9	13.3	35.3	0.6
12月	14.7	2.0	3.0	6.2	3.2	1.2	0.7	1.3	1.9	1.2	0.9	2.2	1.3	3.9	16.4	39.6	0.3
平均	11.3	3.0	5.1	5.4	4.9	2.3	1.8	2.4	7.7	9.6	6.6	2.9	2.7	2.2	6.8	24.9	0.5

付 公害処理指導状況

昭和36年5月19日付けで、新たに神奈川県事業場公害防止条例に基づく事務の一部を市長に委任され、公害問題に対する業務を行なつてきたが、昭和36年6月から12月までの公害発生総件数は124件で、このうち県条例に該当する事業場から発生したものは85件となつており、騒音が最も多く47件(55%)で、主なる発生原因は、板金、切削、プレス作業等で、振動、ばい煙問題などを伴っていることが多々ある。

県条例該当外の施設では、臭気に関するものが多く、総件数39件のうち41%の16件で、主として鶏舎、畜舎等に起因するものである。

市衛生研究所、各区保健所等の職員によつて、調査、指導を行ない、すみやかに解決するよう努力しているが、一部には感情問題などが介入して解決の困難性を増しているものもある。

今後も各種産業の開発、進歩によつて新たな公害問題が発生するであろうが、快適な社会生活と住民の健康保持のため解決に努力して行きたい。

地区別公害問題処理状況

昭和34年4月1日から

昭和36年5月31日まで

区 別	経 過	騒 音	振 動	廃 液	ガ ス	粉じん	ばい煙	臭 気	その他	計
鶴 見	発 生 件 数	6	2		5	8	10	12	1	44
	調 査 指 導 数	11	5		18	16	37	37	1	125
	解 決 件 数	6	2		4	6	7	8	1	34
神 奈 川	発 生 件 数	2				4	10	20	2	38
	調 査 指 導 数	6				9	24	59	2	100
	解 決 件 数	2				4	6	16	2	30
西	発 生 件 数	2				4	19	7		32
	調 査 指 導 数	4				9	26	21		60
	解 決 件 数	1				3	5	4		13
中	発 生 件 数	1				1	3	6		11
	調 査 指 導 数	4				3	9	12		28
	解 決 件 数	1					3	4		8
南	発 生 件 数	1		2		1	4	11		19
	調 査 指 導 数	1		6		4	17	69		97
	解 決 件 数	1		1		1	1	3		7
保 土 ケ 谷	発 生 件 数	1		1	1	7	3	25		38
	調 査 指 導 数	3		1	1	43	6	136		190
	解 決 件 数	1		1		3	1	14		20
磯 子	発 生 件 数				1	3	5	21		30
	調 査 指 導 数				4	15	16	75		110
	解 決 件 数					3	3	15		21
金 沢	発 生 件 数			2	1			7		10
	調 査 指 導 数			7	3			58		68
	解 決 件 数			2	1			7		10
港 北	発 生 件 数	1		1		1		19	1	23
	調 査 指 導 数	3		1		1		70	1	76
	解 決 件 数	1						10		11
戸 塚	発 生 件 数			3				5	1	9
	調 査 指 導 数			14				27	4	45
	解 決 件 数			2				4	1	7
計	発 生 件 数	14	2	9	8	29	54	133	5	254
	調 査 指 導 数	32	5	29	26	100	135	564	8	899
	解 決 件 数	13	2	6	5	20	26	85	4	161

備 考

発生件数に対する調査指導数は平均3.5回

公害問題処理状況（神奈川県公害防止条例該当のもの）

昭和36年6月～12月

区 別	公害種別	騒音	振動	廃液	ガス	粉じん	ばい煙	臭気	その他	計
	処理状況									
鶴 見	受理件数	8	1			2	3	3		17
	処理中	5					2	1		8
	処理済	3	1			2	1	2		9
神 奈 川	受理件数	6				2	2	1		11
	処理中					1		1		2
	処理済	6				1	2			9
西	受理件数	8				2	1	1		12
	処理中	2								2
	処理済	6				2	1	1		10
中	受理件数	3					1			4
	処理中									
	処理済	3					1			4
南	受理件数	5	1			1	1	2		10
	処理中	3				1		1		5
	処理済	2	1				1	1		5
保土ヶ谷	受理件数	7				2	2		1	12
	処理中	1				1				2
	処理済	6				1	2		1	10
磯 子	受理件数	3	1			1	1	2		8
	処理中	2				1	1	1		5
	処理済	1	1					1		3
金 沢	受理件数	4		1						5
	処理中	4		1						5
	処理済									
港 北	受理件数			1						1
	処理中			1						1
	処理済									
戸 塚	受理件数	3		2						5
	処理中			2						2
	処理済	3								3
計	受理件数	47	3	4		10	11	9	1	85
	処理中	17		4		4	3	4		32
	処理済	30	3			6	8	5	1	53

公害問題処理状況(県条例該当外の施設)

昭和36年6月~12月

区 別	公害種別			騒 音	振 動	廃 液	ガ ス	粉じん	ばい煙	臭 気	その他	計
	処理状況											
鶴 見	受 理 件 数								3			3
	処 理 中											
	処 理 済								3			3
神 奈 川	受 理 件 数								1	1		2
	処 理 中											
	処 理 済								1	1		2
西	受 理 件 数			2				1	3	3		9
	処 理 中			2					1	2		5
	処 理 済							1	2	1		4
中	受 理 件 数			4				1	1	1		7
	処 理 中											
	処 理 済			4				1	1	1		7
南	受 理 件 数											
	処 理 中											
	処 理 済											
保 土 ケ 谷	受 理 件 数			1		2				5		8
	処 理 中									1		1
	処 理 済			1		2				4		7
磯 子	受 理 件 数									1		1
	処 理 中											
	処 理 済									1		1
金 沢	受 理 件 数											
	処 理 中											
	処 理 済											
港 北	受 理 件 数							2		1		3
	処 理 中											
	処 理 済							2		1		3
戸 塚	受 理 件 数					2				4		6
	処 理 中					1						1
	処 理 済					1				4		5
計	受 理 件 数			7		4		4	8	16		39
	処 理 中			2		1		2	1	5		11
	処 理 済			5		3		2	7	11		28